

Oracle® Solaris 11.3 ネットワークサービスの紹介

ORACLE®

Part No: E62631
2016年11月

Part No: E62631

Copyright © 2002, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
1 ネットワークサービスの紹介	9
Oracle Solaris 11.3 のネットワークサービス	9
LDAP サービスを管理するための主要なタスク	10
DNS および NIS サービスを管理するための主要なタスク	11
DHCP および IPQoS サービスを管理するための主要なタスク	13
NFS サービスを管理するための主要なタスク	14
SMB と Windows の相互運用性を管理するための主要なタスク	15
ネットワークキャッシングおよび時間関連のサービスを管理するための主要なタスク	16
sendmail サービスを管理するための主要なタスク	18
リモートシステムを管理するための主要なタスク	18
UUCP および PPP を使用してシリアルネットワークを管理するための主要なタスク	19
サービスロケーションプロトコルサービスを管理するための主要なタスク	20
 索引	 23

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle Solaris オペレーティングシステムでサポートされているネットワークサービスの概要を示します。
- **対象読者** – システム管理者。
- **前提知識** – ネットワーク管理の基本的なスキルと一部の高度なスキル。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E62101-01> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお聞かせください。

ネットワークサービスの紹介

この章では、Oracle Solaris 11.3 でネットワークサービスを管理するために使用される主要なタスクのリストを示します。

Oracle Solaris 11.3 のネットワークサービス

主要なタスクのリストを表示するには、次のネットワークサービスのいずれかを選択します。

- **LDAP** – Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サービスを使用すると、分散ネームサービスのディレクトリサーバーにアクセスできます。
- **DNS および NIS** – ドメインネームシステム (DNS) サービスを使用すると、システムがホスト名に対する IP アドレスおよび IP アドレスに対するホスト名を参照できます。ネットワーク情報システム (NIS) サービスを使用すると、マシンの名前とアドレス、ユーザー、およびネットワークサービスなどのネットワーク情報を管理できます。
- **DHCP および IPQoS** – 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サービスを使用すると、システムによって自動的にネットワークを構成できます。IP サービス品質 (IPQoS) サービスを使用すると、優先順位付け、管理、およびネットワークアカウンティング統計の収集を行うことができます。
- **NFS** – ネットワークファイルシステム (NFS) サービスを使用すると、ネットワーク経由でファイルシステムにアクセスできます。
- **SMB** – Server Message Block (SMB) サービスを使用すると、Oracle Solaris システムと Windows システムの間でファイルを共有できます。
- **NTP および PTP** – Network Time Protocol (NTP) および Precision Time Protocol (PTP) サービスを使用すると、ネットワーク内のシステムクロックを同期できます。
- **sendmail** – sendmail サービスを使用すると、電子メールサービスを設定および維持できます。
- **FTP** – ファイル転送プロトコル (FTP) サービスを使用すると、ネットワークを介して 2 つのシステム間でファイルを転送できます。
- **UUCP および PPP** – Point-to-Point Protocol (PPP) サービスを使用すると、物理的に離れた場所にある 2 つのシステムが互いに通信できます。UNIX-to-UNIX CoPy

(UUCP) サービスを使用すると、物理的に離れた場所にある 2 つのシステムが互いにファイルを転送したりメールを交換したりできます。

- **SLP** – サービスロケーションプロトコル (SLP) は、ネットワーク内でネットワークサービスを検出したりプロビジョニングしたりするためのフレームワークを提供します。

LDAP サービスを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると LDAP サービスを管理できます。

- LDAP ネームサービス用に Oracle Directory Server Enterprise Edition を構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「LDAP ネームサービスを使用するように Oracle Directory Server Enterprise Edition を構成する方法」を参照してください。
- LDAP サーバーにデータを移入します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「LDAP サーバーへのデータの移入」を参照してください。
- 追加プロファイルを使用してディレクトリサーバーを生成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「ディレクトリサーバーに追加プロファイルを移入する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると LDAP クライアントを管理できます。
 - LDAP クライアントを初期化します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「LDAP クライアントの初期化」を参照してください。
 - LDAP クライアント構成を変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「LDAP クライアント構成の変更」を参照してください。
 - LDAP クライアントを初期化解除します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「LDAP クライアントの初期化解除」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、LDAP クライアントのステータスをモニターできます。
 - `ldap_cachemgr` デーモンが実行中であることを確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「`ldap_cachemgr` デーモンのステータスの確認」を参照してください。
 - 現在のプロファイル情報を確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「クライアントプロファイル情報の確認」を参照してください。

- 基本的なクライアント/サーバー間通信を検証します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「基本的なクライアント/サーバー間通信の検証」を参照してください。
- クライアント以外のマシンからの LDAP サーバーデータの確認。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「クライアント以外のマシンからの LDAP サーバーデータの確認」を参照してください。
- NIS から LDAP への移行。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: LDAP』の「NIS から LDAP への移行タスクマップ」を参照してください。

DNS および NIS サービスを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると、DNS および NIS サービスを管理できます。

- 次のタスクを使用すると、ネームサービススイッチを構成できます。
 - データベースのソースを変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「データベースのソースを変更する方法」を参照してください。
 - データベースの検索条件を構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「データベースの検索条件を構成する方法」を参照してください。
 - すべてのネームデータベースのソースを変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「すべてのネームデータベースのソースを変更する方法」を参照してください。
 - 従来の `nsswitch.conf` ファイルを使用します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「レガシー `nsswitch.conf` ファイルの使用方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、DNS サーバーおよびクライアントサービスを管理できます。
 - DNS パッケージをインストールします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「DNS パッケージをインストールする方法」を参照してください。
 - DNS サーバーを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「DNS サーバーを構成する方法」を参照してください。
 - DNS サーバーデーモンのリモート制御アクセスの構成ファイルを作成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「`rndc.conf` ファイルを作成する方法」を参照してください。

- DNS サービスを代替ユーザーとして実行します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「DNS サービスを代替ユーザーとして実行する方法」を参照してください。
- DNS クライアントを有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「DNS クライアントを有効にする方法」を参照してください。
- DNS 構成を確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「DNS 構成の変更を検証する方法」を参照してください。
- マルチキャスト DNS および DNS サービス検出を有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「mDNS および DNS サービス検出を有効にする方法」を参照してください。
- Oracle Solaris Active Directory クライアントを設定するために、nss_ad モジュールを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「nss_ad モジュールを構成する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、NIS サービスを設定および構成できます。
 - マスターサーバーを準備します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「マスターサーバーの準備 (タスクマップ)」を参照してください。
 - NIS サーバー上の NIS サービスを起動および停止します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「NIS サーバー上の NIS サービスの起動と停止 (タスクマップ)」を参照してください。
 - NIS スレーブサーバーを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「NIS スレーブサーバーの設定 (タスクマップ)」を参照してください。
 - NIS クライアントを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「NIS クライアントの管理 (タスクマップ)」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると NIS サービスを管理できます。
 - NIS ドメインに新しい NIS ユーザーを追加します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「NIS ドメインに新しい NIS ユーザーを追加する方法」を参照してください。
 - NIS マップのマスターサーバーを変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「マップのマスターサーバーを変更する方法」を参照してください。
 - 構成ファイルを変更して、セキュリティおよびサポートされるマップの情報を更新します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「構成ファイルを更新する方法」を参照してください。

- Makefile エントリを変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「特定のデータベースを使用するように /var/yp/Makefile を変更する方法」を参照してください。
- 既存マップの更新と変更を行います。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「デフォルトセットに付いているマップを更新する方法」を参照してください。
- NIS サーバーを操作して NIS 構成を変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「NIS と DNS を使用してマシンのホスト名とアドレスの検索を構成する方法」を参照してください。
- 次の情報を使用して NIS をトラブルシューティングできます。
 - 1 台の NIS クライアントに影響する問題。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「単一の NIS クライアントに影響する問題」を参照してください。
 - NIS クライアントに影響する問題詳細は、『Oracle Solaris 11.3 ディレクトリサービスとネームサービスでの作業: DNS と NIS』の「複数の NIS クライアントに影響する問題」を参照してください。

DHCP および IPQoS サービスを管理するための主要なタスク

- 次のタスクを使用すると DHCP サービスを管理できます。
 - ユーザーに DHCP コマンドへのアクセス権を付与します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「ユーザーに DHCP コマンドへのアクセス権を付与する方法」を参照してください。
 - ISC DHCP サーバーを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「ISC DHCP サーバーを構成する方法」を参照してください。
 - DHCP サービスの構成を変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「DHCP サービスの構成を変更する方法」を参照してください。
 - DHCP クライアントを有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「DHCP クライアントを有効にする方法」を参照してください。
 - DHCP クライアントを無効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「DHCP クライアントを無効にする方法」を参照してください。
 - DHCPv4 クライアントが特定のホスト名を要求できるようにします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での DHCP の作業』の「DHCPv4 クライアントが特定のホスト名を要求できるようにする方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると IPQoS サービスを管理できます。
 - QoS ポリシーを計画します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での IP サービス品質の管理』の「QoS ポリシーの計画のタスクマップ」を参照してください。

- IPQoS 構成ファイル内で QoS ポリシーを定義します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での IP サービス品質の管理』の「QoS ポリシーの定義のタスクマップ」を参照してください。
- IPQoS を管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での IP サービス品質の管理』の「IPQoS の管理」を参照してください。
- フローカウンティングを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での IP サービス品質の管理』の「フローカウンティングデータ用のファイルを作成する方法」を参照してください。

NFS サービスを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると、ネットワークファイルシステムを管理できます。

- NFS サービスを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS サービスの設定」を参照してください。
- NFS ファイルシステムをマウントします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「ファイルシステムマウントのタスクマップ」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、ファイルシステムの自動共有を管理できます。
 - ファイルシステムの自動共有を設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「ファイルシステム自動共有を設定する方法」を参照してください。
 - ファイルシステムの自動共有を管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「autofs 管理」を参照してください。
- Secure NFS システムを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「DH 認証を使用して Secure NFS 環境を設定する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、NFS リフェラルを管理できます。
 - 複数の NFS Version 4 サーバーに接続するために、NFS リフェラルを作成してそこにアクセスします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS リフェラルの作成とアクセスの方法」を参照してください。
 - NFS リフェラルを削除します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS リフェラルを削除する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、Federated file system (FedFS) を管理できます。
 - 名前空間データベース (NSDB) を作成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「名前空間データベースの作成方法」を参照してください。

- NSDB へのセキュアな接続を使用します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NSDB へのセキュアな接続を使用する方法」を参照してください。
- FedFS リフェラルを作成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「FedFS リフェラルを作成する方法」を参照してください。
- 次の情報を使用して、NFS および autofs をトラブルシューティングできます。
 - NFS クライアントの接続性の問題を確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS クライアントの接続性を確認する方法」を参照してください。
 - NFS サーバーをリモートで確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS サーバーをリモートで確認する方法」を参照してください。
 - サーバーで NFS サービスを確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「サーバーで NFS サービスを確認する方法」を参照してください。
 - mount コマンドに使用されたオプションを確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「mount コマンドで使用されたオプションを確認する方法」を参照してください。
 - NFS のエラーメッセージの説明と解決方法。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「NFS エラーメッセージ」を参照してください。
 - Autofs のエラーメッセージの説明と解決方法。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークファイルシステムの管理』の「autofs のトラブルシューティング」を参照してください。

SMB と Windows の相互運用性を管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると SMB サービスを管理できます。

- 次のタスクを使用すると、ID マッピング戦略を作成できます。
 - ユーザーおよびグループに対するディレクトリベースの名前マッピングを管理します。詳細は、『Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3』の「Managing Directory-Based Name Mapping for Users and Groups」を参照してください。
 - UNIX 用の ID 管理を使用して、ディレクトリベースの ID マッピングを管理します。詳細は、『Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3』の「Managing Directory-Based Identity Mapping by Using Identity Management for UNIX」を参照してください。

- ユーザーおよびグループに対するルールベースの ID マッピングの管理。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Managing Rule-Based Identity Mapping for Users and Groups](#)」を参照してください。
- samba サービスを無効にします。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[How to Disable the Samba Service](#)」を参照してください。
- SMB サーバーの操作モードを構成します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Configuring the SMB Server Operation Mode](#)」を参照してください。
- SMB 共有を管理します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Managing SMB Shares \(Task Map\)](#)」を参照してください。
- SMB グループを管理します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Managing SMB Groups](#)」を参照してください。
- WINS サービスを構成します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[How to Configure WINS](#)」を参照してください。
- SMB 印刷サービスを構成します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[How to Enable the SMB Print Service](#)」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると SMB マウントを管理できます。
 - ローカル環境で SMB マウントを管理します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Managing SMB Mounts in Your Local Environment](#)」を参照してください。
 - グローバル環境で SMB マウントを管理します。詳細は、『[Managing SMB File Sharing and Windows Interoperability in Oracle Solaris 11.3](#)』の「[Managing SMB Mounts in the Global Environment](#)」を参照してください。

ネットワークキャッシングおよび時間関連のサービスを管理するための主要なタスク

ネットワークキャッシングおよび時間関連のサービスを管理するための次のタスクを使用できます。

- 次のタスクを使用すると、ネットワークキャッシングを管理できます。
 - Web ページのキャッシングを有効にします。詳細は、『[Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張](#)』の「[Web ページのキャッシングを有効にする方法](#)」を参照してください。

- Web ページのキャッシングを無効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「Web ページのキャッシングを無効にする方法」を参照してください。
- Network Cache Accelerator (NCA) のロギングを有効または無効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NCA ロギングを有効または無効にする方法」を参照してください。
- NCA 用のソケットユーティリティーライブラリをロードします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NCA 用のソケットユーティリティーライブラリのロード」を参照してください。
- NCA サービスに新しいポートを追加します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NCA サービスに新しいポートを追加する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると NTP を管理できます。
 - Oracle Solaris システムで NTP を設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「Oracle Solaris システム上で NTP を設定する方法」を参照してください。
 - NTP ロギングを有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NTP ロギングを有効にする方法」を参照してください。
 - NTP サービスに関連する SMF プロパティを表示します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NTP サービスに関連する SMF プロパティを表示する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると PTP を管理できます。
 - インタフェースを PTP マスターとして設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「インタフェースを PTP マスターとして設定する方法」を参照してください。
 - インタフェースを PTP スレーブとして設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「インタフェースを PTP スレーブとして設定する方法」を参照してください。
 - PTP サービスを有効にすると、NIC で PTP ハードウェアを使用できます。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「NIC で PTP ハードウェアを使用するために PTP サービスを有効にする方法」を参照してください。
 - PTP ロギングを有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのクロック同期と Web キャッシュを使用したシステムパフォーマンスの拡張』の「PTP ロギングを有効にする方法」を参照してください。

sendmail サービスを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると sendmail サービスを管理できます。

- メールサービスを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「メールサービスを設定する」を参照してください。
- sendmail 構成を変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「sendmail 構成の変更のタスクマップ」を参照してください。
- メール別名ファイルを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「メール別名ファイルの管理のタスクマップ」を参照してください。
- キューディレクトリを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「キューディレクトリの管理のタスクマップ」を参照してください。
- .forward ファイルを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「.forward ファイルの管理のタスクマップ」を参照してください。
- メールサービスをトラブルシューティングします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での sendmail サービスの管理』の「メールサービスのトラブルシューティング手順とヒントのタスクマップ」を参照してください。

リモートシステムを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると、2つのシステム間のファイル転送を管理できます。

- SMF を使用して FTP サーバーを起動します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「SMF を使用して FTP サーバーを起動する方法」を参照してください。
- SMF を使用して FTP サーバーを停止します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「SMF を使用して FTP サーバーを停止する方法」を参照してください。
- FTP 接続を停止します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「FTP 接続を停止する方法」を参照してください。
- FTP サービスの構成を変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「ProFTPD 構成を変更する方法」を参照してください。
- Secure Shell (ssh) を使用してリモートシステムにアクセスします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「Secure Shell を使用したリモートシステムへのアクセス」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、ローカルシステムとリモートシステム間で sftp を使用してファイルを転送できます。

- リモートシステムへの sftp 接続をオープンおよびクローズします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「リモートシステムへの sftp 接続をオープンおよびクローズする方法」を参照してください。
- リモートシステムからファイルをコピーします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「リモートシステムからファイルをコピーする方法 (sftp)」を参照してください。
- リモートシステムにファイルをコピーします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「ファイルをリモートシステムにコピーする方法 (sftp)」を参照してください。
- scp コマンドを使用してリモートシステム間でファイルを転送します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのリモートシステムの管理』の「scp コマンドによるリモートコピー」を参照してください。

UUCP および PPP を使用してシリアルネットワークを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると、UUCP および PPP サービスを管理できます。

- ダイアルアップ PPP リンクを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「ダイアルアップの PPP リンクを設定する主なタスク (タスクマップ)」を参照してください。
- 専用回線 PPP リンクを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「専用回線の設定 (タスクマップ)」を参照してください。
- PPP 認証を設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「PPP 認証の構成 (タスクマップ)」を参照してください。
- PPP over Ethernet (PPPoE) トンネルを設定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「PPPoE トンネル設定の主なタスク (タスクマップ)」を参照してください。
- PPP および PPPoE に関連する問題をトラブルシューティングします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「PPP 問題の解決 (タスクマップ)」を参照してください。
- UUCP を管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「UUCP 管理 (タスクマップ)」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると UUCP をトラブルシューティングできます。
 - 障害のあるモデムを確認します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「モデムまたは ACU の障害確認方法」を参照してください。

- 転送をデバッグします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 での UUCP および PPP を使用したシリアルネットワークの管理』の「送信に関するデバッグ方法」を参照してください。

サービスロケーションプロトコルサービスを管理するための主要なタスク

次のタスクを使用すると SLP サービスを管理できます。

- `snoop` コマンドを使用して、SLP メッセージのトラフィックをモニターします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「`snoop` を使用して SLP トレースを実行する方法」を参照してください。
- ネットワークの輻輳を軽減するために SLP プロパティを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「SLP 構成の変更方法」を参照してください。
- 次の手順を使用して、ディレクトリエージェント (DA) のアクセスと検出頻度を変更できます。
 - ユーザーエージェント (UA) とサービスエージェント (SA) を、静的に構成された DA に限定します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「UA と SA を静的に構成された DA に限定する方法」を参照してください。
 - ダイアルアップネットワークに対する DA 検出を構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「ダイアルアップネットワークに対する DA 検出の構成方法」を参照してください。
 - 頻繁なパーティション分割に対する DA のハートビートを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「頻繁なパーティション分割に対して DA のハートビートを構成する方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、さまざまなネットワークメディア、トポロジ、または構成に対応できます。
 - SA 再登録を削減します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「SA 再登録を削減する方法」を参照してください。
 - マルチキャストの有効期限プロパティを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「マルチキャストの有効期限プロパティの構成方法」を参照してください。
 - パケットサイズを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「パケットサイズの構成方法」を参照してください。

- ブロードキャスト専用ルーティングを構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「ブロードキャスト専用ルーティングの構成方法」を参照してください。
- 次のタスクを使用すると、SLP 検出要求のタイムアウトを変更できます。
 - デフォルトのタイムアウトを変更します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「デフォルトのタイムアウトの変更方法」を参照してください。
 - ランダム待ち時間の上限を構成します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「ランダム待ち時間の上限の構成方法」を参照してください。
- スコープを配備して、サービス通知へのアクセスを管理します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「スコープの構成方法」を参照してください。
- DA を配備して、マルチキャストトラフィックの量を削減します。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「DA を配置する方法」を参照してください。
- レガシーサービスを通知するために SLP プロキシ登録を有効にします。詳細は、『Oracle Solaris 11.3でのサービスロケーションプロトコルサービスの管理』の「SLP プロキシ登録を有効にする方法」を参照してください。

索引

さ

サービスロケーションプロトコル, 20

D

DHCP, 13

DNS, 11

F

FTP, 18

I

IPQoS, 13

L

LDAP, 10

N

NCA, 16

NFS, 14

NIS, 11

NTP, 16

P

PPP, 19

PTP, 16

S

sendmail, 18

SMB, 15

U

UUCP, 19

